



親子3代で頑張る岡崎秀夫さん家族 関連記事8P



編集：京丹後市農業委員会
発行：京丹後市農業委員会事務局
京丹後市大宮町口大野226
電話 0772-69-0040

No.18

平成22年11月

KYOTANGO CITY AGRICULTURE COMMITTEE

農業委員会だより

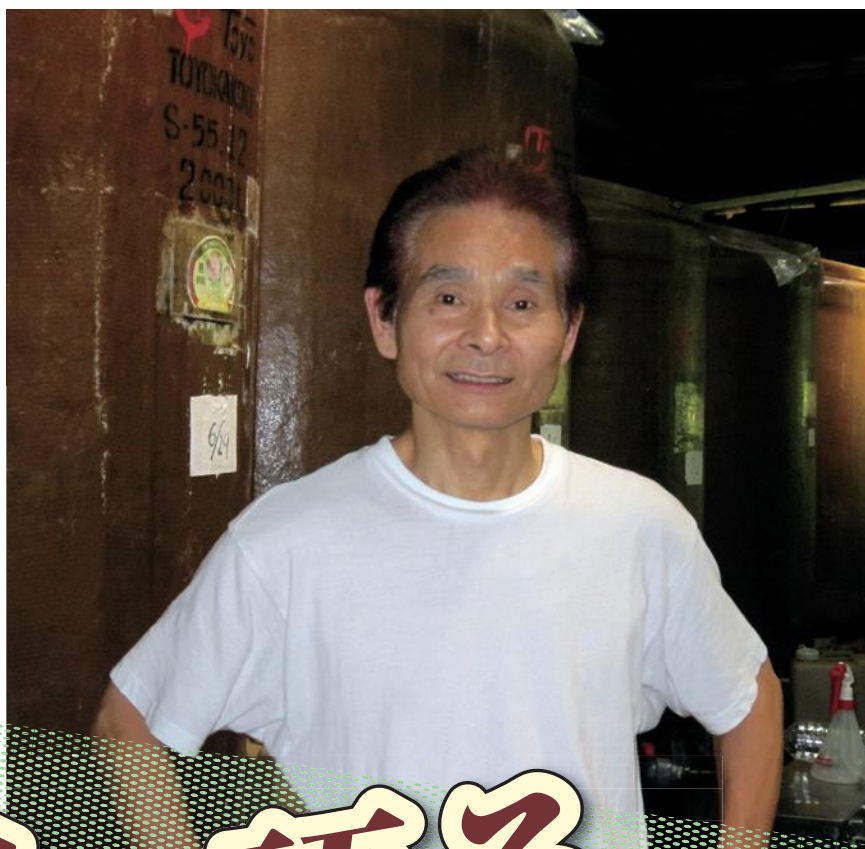
● 目 次 ●

- 2-3P 「農を語る」小野甚味噌醤油株式会社
代表取締役 小野甚一さん(峰山町)
- 4P ぼいす 一声ー 安井利幸委員(網野町)
一言ちょうだい(突撃インタビュー)
- 5P 利用権設定における賃借料情報のお知らせ
- 6-7P 農地パトロールを実施しました
～耕作放棄地対策の取り組み～
耕作放棄地の解消に向けて(専門員・田上義治)
- 8P がんばってます！
岡崎秀夫さん家族(久美浜町)・三宅保さん夫妻(丹後町)
- 8-9P 京丹後アグリ瓦版
あじわいの郷「京丹後食の祭典」(弥栄町)
河梨の十二灯(久美浜町)
赤米の奉納・芦田行雄さん(弥栄町)
- 10P 京丹後紀行「道」
お米推進レシピ「赤米のいもくりごはん」

袋がはじけんばかりに実った岡崎さんの梨

「4代、100年の歴史があります」

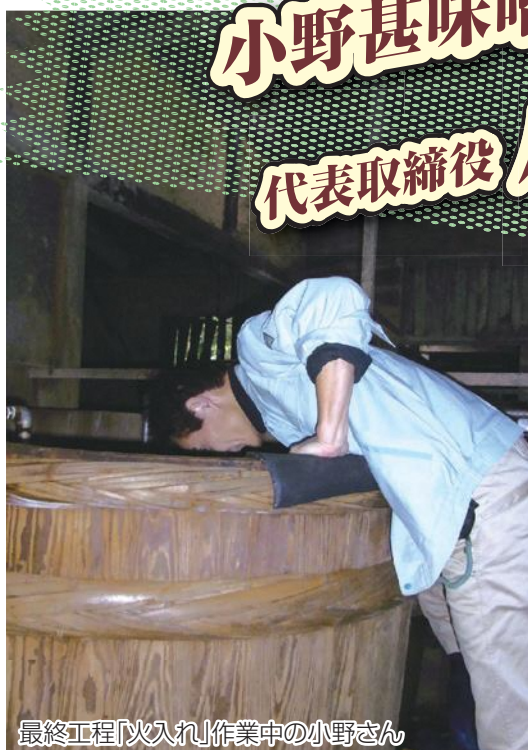
小野甚醤油は、大正元年に創業しました。私は4代目で代を引き継いで35年、年間300〜400石（約54,000ℓ〜72,000ℓ）ほど作っており、まもなく創業100年を数えます。醤油屋というのは、長い歴史をもつ業界ですが、私もこの地域に根をはり、地域の中の一員として頑張りたいと思っています。



「農を語る」

小野甚味噌醤油株式会社

代表取締役 小野甚一さん
(峰山町杉谷)



最終工程「火入れ」作業中の小野さん

現在は、伝統を重んじる醤油・味噌とともに、ドレッシングなど新たな製品の開発・販売を行っています。ドレッシングには様々な農作物を使

います。現在、醤油も味噌も塩はかせませんが、醤油と味噌では、合う塩が違います。醤油には、にがりがあつて伝統的な赤穂の塩、味噌には、湖底塩といつて干上がった湖にある塩で、ミネラルが多いモンゴルの塩を使います。味噌作りには、この塩に「コシヒカリ」と「大豆」というのが良く合います。そして、評判もいいですね。さらに、独自製品のドレッシングには、湿気を含みやすい塩、琴引の塩を使います。

「原材料にはこだわっています」

いますので、できる限り地元の農家の方にお願ひしています。やっぱり、地元の農家の方が丹精こめて作るものは、それだけありがたみがあって気持ちも伝わってきますし、私が製品化することで作物の大切さやおいしさをお返しできると思っています。

これからも、地元の農家さんの作物を使って、「ここでしか作れない」「味で負けない」商品を作っていると思っています。

「地元のニンニクでドレッシングを作っています」

私の作る「黒にんにくのドレッシング」は、網野で育てられ1ヶ月間熟成発酵された黒にんにくを使います。この黒にんにくは、農商工連携の認定で一昨年から作っておられるもので、化学肥料や農薬が少なく、味はもちろん栄養価も非常に高いのが特徴です。そして、黒にんにくはもともと臭いが少ないので、1ヶ月間の熟成発酵で、臭みは98%ほどなくなるんです。また、ポリフェノール（※）が大幅に増加することにより、美容や長寿につながります。これだと、最初から最後まで地元のものだけで作れ、なおかつ美味

しくて健康にいい。この上ないことです。

ニンニクの良いところは、健康に良いというだけでなく、畑に植えても「イノシシ」が来ない（笑）。効率もいいですよ。

「農家からの安定した供給が必要です」

醤油も味噌も大豆が主で、私は醸造から製品にいたる全工程を、自然に任せて無添加で造ります。この夏みたいな異常気象だと出来上がりを心配しますが、自然で作るものは、最終的にはうまく「つじつま」が合うようで、美味しい製品を作り続けることにもなります。

ただ、大豆や小麦を地産産だけでまかなうというのは、なかなか難しいですね。原料費の点だけでなく、安定して供給していただけるのかを考えると、地元で作ってもらえる農家さんをなかなか見つけられないというところもあります。

新たな商品の開発についても、こっちが仕掛けてはいくんですが、せっかくなので一年で終わつた」とならないように、いろんな分野の方に協力をお願いしたいといけませ

ん。特に、農家さんには、京丹後のおいしい作物を継続して供給していただきたいんですが、これには行政の後押しが必ず必要になってくると思います。地産地消を奨め、農業の基盤を安定させるといふのは、個人個人が動いても大きな力になりません。個人の思いを一つのうねりにして改革していくには、是非とも行政の支援をお願いしたいですね。

私自身も、連綿として続いてきたこの屋号を、自分自身が満足できるかたちで次の代へバトンタッチできるように、一日一日を大切に、頑張っていると思っています。

（※）ポリフェノール(polyphenol)を摂取すると、動脈硬化や脳梗塞を防ぐ抗酸化作用、ホルモン促進作用が向上するといわれています。



奥様のひとこと



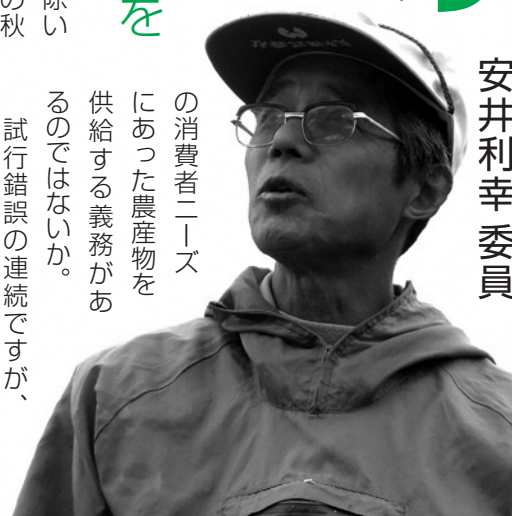
「主人の基一さんを助け、積極的に各種イベント等にも出展し頑張っている奥さんのまり子さん」

「田舎の無名の味噌、醤油屋が少しでも世間に知られるようになったのは、今はもう亡くなられましたが、料理研究家の大村しげさんが「京のおばんざい」で採りあげて下さったのが大きいと思います。主人も日頃から言っていることです。峰山で創業して100年。皆さんに支えられて今まで商売させてもらっています。今後とも家族でこの仕事を続けて行きたいと思っています。やがて都会へ出てくる息子も帰ってきてくれて家業を継いでくれることでしょう。それまで頑張らなくっちゃ。」

ぼいす

消費者ニーズに あつた農産物を

安井利幸 委員



の消費者ニーズ
にあつた農産物を
供給する義務があ
るのではないかな。

試行錯誤の連続ですが、
とにかく新しいことにチャレンジし
てみようと思ひ昨年、農業や化学肥料
を一切使わない米作りを始めてみたの
です。収穫は8俵どまりでしたが、販売
面で手ごたえを感じ、今年は面積を倍
増しました。米価が下落している折、冒
険でしたが、一割アップの価格設定で
も順調に売れている、と嬉しい報告を
もらっています。

収穫シーズンも一部農産物を除い
てほとんど終了しましたが、今年の秋
はいかがだったでしょうか。丹後産コ
シヒカリは、3年連続で最上級の「特A」
の勲章を戴き、春の耕起から始まり、
大いに期待をかけて迎えた稔りの秋
だったはずですが、結果は悲惨なも
のでした。高温障害や、米価の大暴落で
大幅な所得減、意欲減退となりました。
一昨年の小麦価格の上昇で、麺類の消
費が落ち込み、米粉ブームと合いまっ
て米消費への回帰が報道されていた
だけに、消費の減退はショックでした。

私は、日本政策金融公庫の主催する
農商工連携などの会議でバイヤーさ
ん達の話や聞くたびに都会の消費者
がどんな農産物を求めているのか気
になってきました。慣行の農業生産技
術を否定するものではありませんが、
消費者は安心・安全を求めている。そ

だわりの農産物を作るといことは手
間ヒマがかかり大変な作業ですが、そ
こには「物語」が生まれています。その
物語が売りなんです。

TTP（環太平洋戦略的経済連携協
定）参加の問題、農業従事者の高齢化、
耕作放棄地の増加など、農業をとりま
く環境は年々厳しくなっていますが、
「丹後の豊かな自然と気候風土に育ま
れた農産物をあなたの食卓に！」をキ
ャッチフレーズに残された日々を楽し
く農産物生産に励みたいと思っています。

農業人生の最後のときに、お互い手
を取り合って「よくついて来てくれた、
すばらしい人生だったよ。ありがとう。」
といえるように。



手を取り合ってタマネギを植える安井さん夫妻

一言ちょうだい 突然お話しします！



こいしはら くにお
小石原 邦雄 さん (60才)
[網野町新庄]

「米作りは、やっぱり難しいですね。」



ひらい たくみ
平井 巧 さん (76才)
[峰山町丹波]

「田んぼの水はけを良くしているんですよ。」



み た い たる
味田 格 さん (83才)
[弥栄町鳥取]

「健康法だと思っています。」

利用権設定における賃借料情報をお知らせします。

下記の表は、平成20～21年に締結された農業経営基盤強化促進法による利用権の設定における賃借料(10a当たり)のデータ表です。この賃借料データは、平成21年に標準小作料が廃止されたことにより公表するもので、あくまでも目安です。貸し手と借り手で話し合いのうえ、お互いが納得のいく金額で契約することが大切です。

農地所在地	年(※)	田畑区分	平均額	最高額	最低額	契約件数	備考
峰山町	平成20年	田(水田)	9,000	13,000	4,600	57	
		畑	14,500	15,000	9,300	102	国営農地含む
	平成21年	田(水田)	7,500	11,000	3,100	28	
		畑	13,800	15,000	5,000	16	国営農地含む
大宮町	平成20年	田(水田)	12,800	16,700	6,100	36	
		畑	15,000	15,000	15,000	236	国営農地
	平成21年	田(水田)	12,000	15,000	6,500	21	
		畑	14,000	15,000	14,000	108	国営農地
網野町	平成20年	田(水田)	10,300	10,300	10,300	5	
		畑	14,900	15,000	10,000	37	国営農地含む
	平成21年	田(水田)	11,300	13,000	9,300	4	
		畑	14,800	15,000	10,000	59	国営農地含む
丹後町	平成20年	田(水田)	12,400	17,600	3,700	140	
		畑	2,600	4,400	1,000	6	普通畑
	平成21年	田(水田)	9,000	10,000	3,000	7	
		畑	0	0	0	0	
弥栄町	平成20年	田(水田)	9,700	13,000	8,000	9	
		畑	15,000	15,000	15,000	194	国営農地
	平成21年	田(水田)	9,400	13,000	2,500	23	
		畑	0	0	0	0	
久美浜町	平成20年	田(水田)	6,300	12,000	2,300	319	
		畑	14,600	15,000	7,500	78	国営農地
	平成21年	田(水田)	5,500	6,800	3,000	14	
		畑	17,000	17,000	17,000	4	国営農地
(参考) 京丹後市 平均	平成20年	田(水田)	8,600			566	
		畑	14,800			653	
	平成21年	田(水田)	8,900			97	
		畑	14,300			187	

※平成20年とは、平成20年1月から12月までに締結(公告)された賃借権における10a当たりの賃借料です。
平成21年とは、平成21年1月から12月までに締結(公告)された賃借権における10a当たりの賃借料です。
ご不明な点は、京丹後市農業委員会事務局(69-0040)までお問い合わせください。

女性農業者の皆さん、あなた自身の年金を!

女性農業者の皆さん、老後の備えは万全ですか?

現在65歳の日本人の平均余命は、**男性が18.6年(83.6歳)、女性が23.6年(88.6歳)**です(厚生労働省「平成20年簡易生命表」より)。女性の老後は男性以上に長い道のりです。

農業者年金は女性農業者の老後をしっかりサポートします。

母さんには母さんの年金が必要じゃ!



**老後の備えは
農業者年金
で安心!!**

お問い合わせは、 JA(京都農業協同組合)京丹後市内各支店
または、京丹後市農業委員会事務局 電話69-0040 まで

農地パトロールを実施しました



農地をパトロールし、意見を出し合う委員

京丹後市農業委員会では、8月27日に農地パトロールを実施しました。今回のパトロールでは、市内の農地が違法に転用されていないか、申請どおり適正利用されているかに加え、耕作放棄地対策のモデル地区の利用状況の調査・確認をしました。

このモデルは、耕作放棄地対策協議会が主体となり、農業生産法人だけでなく農外法人との交流を図り、昨年度から開始したものです。「旧町ごとにモデル地区を」を合言葉に取り



国営団地の桑園を熱心に視察する委員

組んだ結果、「露地」でタマネギ・お茶その他果樹等「施設園芸（ハウス）」でトマト・九条ネギ等が栽培されています。
農業を取り巻く状況が厳しさを増すなかで、既存の農業者だけでは農地を守れなくなっており、農外法人の参入を積極的に進めていく時期が来ているのではと感じています。

農業委員会では、農地の違反転用等だけでなく、耕作放棄地が増加しないようパトロールを続けていきます。適正な農地利用に、みなさまのご協力をよろしくお願いします。

（農地の転用に関するお問い合わせは、京丹後市農業委員会 TEL 69・0040まで）

全国農業新聞



第28回全国農業新聞写真コンクール 作品募集

全国農業新聞（発行＝全国農業会議所）は、第28回全国農業新聞写真コンクールを実施します。レンズを通して農業・農村の現状を見つめ、農業・農村の持つ多面的な役割を再認識するとともに、1人でも多くの方が農業・農村の姿に目を向け、農業のあり方や今後の活性化策などについて考える契機にしていきたいと思ひます。読者、農業委員会関係者をはじめ、多くの方の応募をお待ちします。

賞

- ①大賞 1点 ……10万円
- ②部門賞各 1点 … 3万円
- ③佳作各若干点 … 1万円

応募資格

原則として、全国農業新聞の読者となりますが、未購読の方の応募を妨げるものではありません。

募集部門

- (1) 1枚写真の部
- (2) 組み写真の部
(1作品3枚まで)

締切

2010年12月31日
(当日消印有効)

お問い合わせは、全国農業新聞 新聞編集部(03-6910-1127)
または、京丹後市農業委員会事務局(69-0040)までお問い合わせください。

耕作放棄地対策の取り組みをお知らせします

「耕作放棄地」の定義にはさまざまな見解がありますが、京丹後市農業委員会では「過去1年以上、作付けがなく、かつ、草刈り等、適正な管理ができていない農地」と定めています。

耕作放棄地 対策の実績

活動 内容

京丹後市では、平成20年度に耕作放棄地データを作成し、21年度からは「耕作放棄地対策協議会」を立ち上げて、以下の活動を行いました。

- ① 農地所有者及び担い手農家への意向調査
- ② 担い手への結びつけ
- ③ 耕作放棄地の再生利用モデル作り

結 果

旧町各1箇所ずつ、再生利用のモデルづくりを目標に取り組んだ結果、6箇所計約9haの解消事例を作ることができました。

京丹後市農業委員会の取り組み

農地法改正により耕作放棄地（農地の利用状況）に関する調査及び指導等が法令に基づく業務に位置付けられましたので、取り組み内容をお知らせします。

～耕作放棄地対策活動の概要～

- ① 毎年1回の耕作放棄地調査を行う。
- ② 調査の結果に基づいて、耕作放棄地対策の重点地区を定める。
- ③ 重点地区において、耕作放棄地の再生利用を推進する。

～具体的な耕作放棄地対策～

- ① 農地所有者への意向調査
- ② 所有者に対する利用に向けた指導
- ③ 農地の面的集積などの利用調整（幹旋）活動

市では、今後も耕作放棄地の解消・防止を図ってまいります。しかし、大切なのは、農地の所有者・耕作者が農地を適正に利用していくことです。そのためには、個人・集落組織・行政等が一丸となって、取り組む必要があります。

耕作放棄地 解消に向けて

専門員 田上義治

本年7月から農業委員会で、耕作放棄地対策のお手伝いをさせていただいております。

近年、農業を取りまく情勢は非常に厳しく、米価の下落、異常気象に加えて鳥獣害も年々増加しており、先の見えない状況が続いています。

京丹後市でも条件の悪い農地から年々耕作放棄地が増えていますが、農地は一度荒廃すると元に戻すには大変な労力がかかります。

まずは、耕作放棄地をこれ以上増やさないことが肝心です。

それには、農業の担い手を確保するとともに、農地の面的集積を促進してスケールメリットを活かし、収益性を高め他産業並みの所得が得られるよう工夫することが求められます。

一方で、水菜やキュウリ等のハウス栽培や小菊等の露地栽培等、高齢者でも手軽に出来、しかも一定の収益も期待できるような作物の普及・拡大も必要だと思います。また、農家個人で解決することが難しいところは、集落ぐるみで農地をどう守るか考えることも大事なことだと思います。

京丹後市の大きな財産である農地を荒廃することなく、農家はもちろん市民全員で守っていききたいものです。



耕作放棄地にて調査を行う田上専門員

京野菜「エビイモ」の出荷

三宅 保さん(78才)
たつ枝さん(74才)

【丹後町遠下】

11月より、エビイモの収穫が始まり、出荷作業に忙しい三宅さんご夫妻を訪ねました。

三宅さんが、先駆者としてエビイモの作付けを始められたのは14年前。以来、試行錯誤を繰り返し、また独自の工夫も取り入れて、今日立派なエビイモを生産しておられます。

また、遊休農地を利用した^{ヤマブチ}の山路や実山椒の出荷にも意欲的に取り組まれています。

三宅さんには、もう一つ元気のもとがあります。男性長寿日本一の木村次郎右衛門さん(113歳)が叔父にあたります。毎年収穫されたエビイモをお届けし、美味しく召し上がって頂いているとのこと。

これから、ますます寒さが厳しくなり、エビイモのおいしい季節となります。皆様ぜひお召し上がりいただきたいとのことでした。これからも、ますますお元気でがんばってください。



協力して出荷作業に
いそむ三宅さん夫妻

がんばってます

親子3代で力を合わせて
【久美浜町三原】
岡崎さん一家は代々の果樹農家で、シルバーの繁信さん(79才)・絹恵さん(79才)、所帯盛りの秀夫さん(49才)・るみさん(48才)、就農2年目の省吾さん(25才)・千穂さん(25才)の3世代で果樹園を営まれています。
梨を中心に、桃・リンゴなど多角的に栽培に取り組まれ、新しい時代の経営に努力されています。
今年は、熊などの獣害にも悩まされましたが、これに屈することなく「厳しい農業情勢の中でも頑張って農業に取り組んでいく」という秀夫さんの言葉に心強いものを感じました。
家族一人一人の個性が光っていて、しかもみんなでスクラムを組んで前進している。
そんな岡崎一家にご期待あれ。



手塩に掛けて育てた芋は、きれいなエビ形をしています。



苦労した分、美味しい梨ができました

あじわいの郷 ～京丹後食の祭典～

10月3日、丹後あじわいの郷で「京丹後食の祭典」が催されました。会場では、旧6町の支部、福祉会や商工会が独自のブースで米粉パン、果物、クッキーなどさまざまな商品を販売し、多数の来場客をにぎわせました。また、餅つきやお茶の淹れ方講習などの体験イベントもあり、なかでも「巨大ばら寿司作り」は、幅60センチ・長さ10メートルのまつぶたに、親子20組40名が参加して、約750名に振るまわれました。



『伝えていきたい丹後の味』をコンセプトに丹後ばら寿司を作る参加者

河梨の十二灯

久美浜町河梨区

猛暑の続く8月23日、久美浜町河梨地区（39戸）で、今年も豊作祈願の火祭行事「河梨の十二灯」が実施されました。

当日は、万灯山に地区の若衆20数名が参集し、十二灯を作製します。若衆らは、夕暮れ時になると十二灯を愛宕山（神谷神社）に向けて固定し、神谷神社から採火された御神火を一斉に点火しました。



協力し、竹を組んで十二灯を作製します

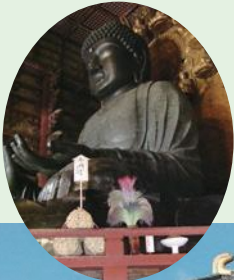
**伝統の灯を
絶やさぬよう**

行事に永年かかわってきた綱誠一郎さん（66才）は、「府登録無形民俗文化財にもなっており、灯火管制の厳しかった太平洋戦争時でさえも連綿として続けられてきたと聞いています。何時の頃から始まったかは定かではありませんが、伝統を守って、続けて行きたいものです。」と話しました。



高さは8mを超え、遠くからでもよく見えます

1200年のときを越えて 赤米を奉納



弥栄町和田野
芦田行雄さん(85才)



「あかごめ学校」の生徒と共に(芦田さん:前列中央)

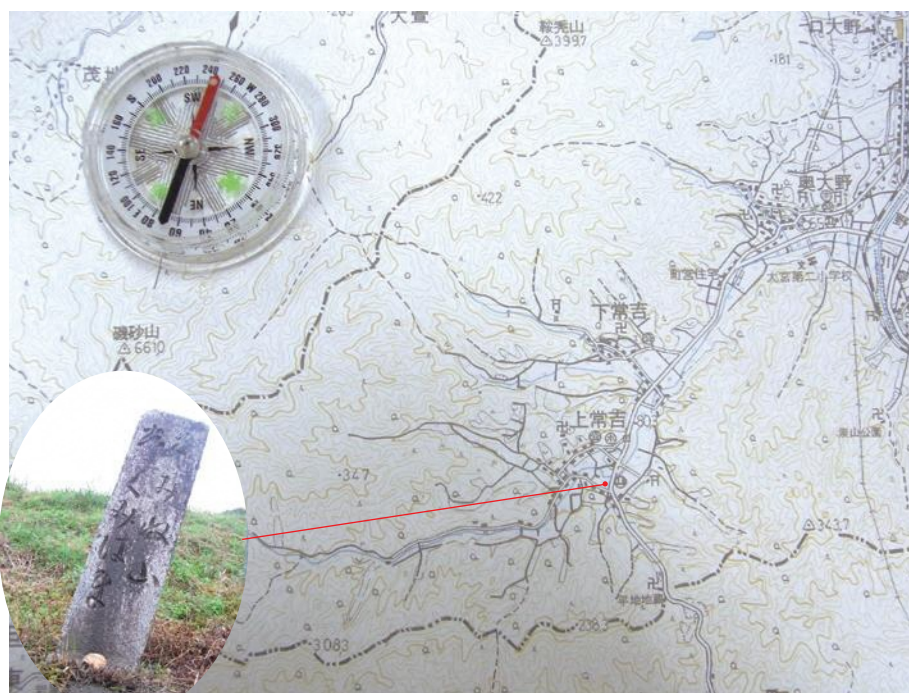
10月16日、芦田さんは、御自身がつくられた「あかごめ学校」の生徒らとともに、東大寺が催す光明皇后1250年御遠忌法要にて赤米30キロを奉納しました。丹後の赤米は、昭和40年に平城京跡（奈良市）で出土した木簡により、今から1200年以上も前に、平城京に納められていたことがわかっています。芦田さんは、この発見を機に古代米・赤米の復活を決意して、赤米数十粒を入手して以来約30年、栽培し続けてきました。

芦田さんは「赤米を、こんなに大きな行事に、1200年のときを越えて奉納できてとにかくびっくりです。本当に幸せです。」と満面の笑みを浮かべ、赤米の復活・普及に尽くしてきた軌跡を振り返りました。

京丹後紀行

道

大宮町 上常吉



文 鴨田忠司

歩くから道になる
歩かなければ 草が生える

これは、書家で詩人の相田みつをさんの言葉である。

府道76号野田川大宮線、今やすっかり冬の風物詩となった葎着せ地蔵さんで有名な平地峠を大宮町側の下っていくと、日本一小さい「常吉村営百貨店」があり、その手前、上常吉の集落に入る三差路に、この道標は建っている。花崗岩で高さ72cm。

右 みねやま 左 くみはま

右の峰山は、納得できるが、久美浜については、左に進路をとり、集落にどんどん入っていくけば、先は山径。「？」と思ってしまふ。

しかし、モータリゼーションの現代に考えるから疑問符がつくわけで、この道標が建てられたころ、人々の往来は、もっぱら、歩くのが常であったことを思えば少しも不思議なことではない。宮津から、(現与謝野町の)市場・幾地を通り常吉に入り、曲がりくねった車谷の山径を登り、磯砂峠を経て、本地師伝説の大成を下り、大呂(路)、鱒留。そして、比治山峠を越えれば(旧)熊野郡へと入る。そう、先ほどの山径は、宮津⇄久美浜を徒歩で結ぶ最短ルートなのである。

ある老翁は、「宮津通いの定便(飛脚)さんは、決まってウチに寄って、帰りの山径へかかるのが常だった。それだけに、定便さんから、宮津や久美浜の話しを聞けるのが、子供の頃は楽しかった。」という。

以前の常吉周辺は、大小多くの棚田があった。定便さんは、棚田から見える集落をながめながら一服し、山水をすくってのどをうるおしていたのだろう。

最初にこの道を歩んだ人。後ろから来る人のための道標。やや傾き加減の小さな道標だが、考えす意味は大きい。

お米推進レシピ

赤米のいもくりごはん



・梨煮・お漬物

材 料 (4人分)

米……2カップ 赤米…2分の1カップ
もち米…1カップ みりん…大さじ5分の3
さつまいも、栗…各100g 塩…大さじ5分の3

作 り 方

- ①米ともち米、赤米は洗って米の容量の1.5割増の水に30分くらいつけておく。
- ②栗はきれいに皮をむいて4等分に切り、さつまいもは皮をところどころむいて栗と同じくらいの大きさに切り、さらす。(皮を少し残すと、赤色が出てきれいです)
- ③①にみりん、塩を加えて混ぜ、②の栗・さつまいもを加えて炊く。
- ④炊き上がったら、十分蒸らし栗とさつまいもを潰さないように混ぜ、器に盛る。



【ひとこと】

今年の天候は、作物にとってはひどいものでしたが、ようやく収穫期を迎えました。特級品ではありませんが、お米をはじめ数多くの農産物が収穫できました。感謝・感謝、そして美味しい。

(川津委員)